NIE実践報告

1．タイトル：**「今」起きている社会の出来事への関心を高め、自分で「気づく」ために**

2．学校名

山形県川西町立玉庭中学校

3．実践者名（代表者名）

鈴木敏子

4．学年

第1・2・3学年（全学年）

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　（社会）　24人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞記事をスクラップして伝えよう

7．目標（狙い）

自分だけの「気づき」から記事を選び、選んだ理由と記事に対する自分の意見をまとめることができる。

8．評価の視点

総合的な学習：自分の「気づき」から情報を収集・活用し記事から「はてな」の課題を探しているか。
社会科：現在社会への関心を高め、新聞を資料として活用するの技能を身につけているか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

1・2年生：社会科(世界の国々調べ、都道府県調べ）各2時間
1・2・3年生：総合的な学習　週1~　2時間ずつ（16週間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①夏休みの課題として、休み中の新聞から「みんなに知らせたいこんな記事」としてスクラップを行い、そう感じた理由を書いて提出する。冬休みの課題として「うれしくなった記事」「頭にきた記事」「悲しくなった記事」「楽しくなった記事」を元日の新聞から選び、そのように感じた理由と、「うれしくなったこと、びっくりしたこと、ぜひみんなに伝えたいをいう記事を選び、その理由と記事を見やすく構成して書いて提出する。（1年生　各1時間）
②学校に配達される新聞記事から、「自分だけが見つけたこんな記事」としてスクラップを行い、掲示し、自分の意見についてお互いの意見交換を行う。（2年生　7時間）
③新聞の投書欄の記事を2~　3個選び、について、自分の意見をまとめる（3年生　3時間）
（留意点）
・生徒自身の「気づき」を大切にするために、記事を選ぶ視点は提示しても強制しないようにしながら、提出時に教師が同じ高さの目線で意見をしたり、友だちが付箋に意見を書いて考えを伝えたりすることができるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

インパクトのある写真や本文が短い記事を選ぶことが多かったが、「新聞を同じ時間にみんなで読む」という時間に慣れてくるにしたがってスポーツ・芸能記事だけでなく、環境問題や時事問題に「はてな」という気持ちを文章にし構成できることが多くなった。

12．成果と課題

・新聞によって取り上げ方が異なることに着目するためには、社会科だけでなく国語科や道徳などで新聞記事を扱うことが必要だったが、教師が一緒になって新聞のスクラップ活動を行い掲示したり、本校の記事を集めたりと学校全体での取り組みが見られるようになった。
・少人数の学校なので、校内で記事についての意見交換をするだけではなく、校外に意見を発信し評価を得るためにも、投書欄の活用や新聞にかかわるコンクールなどへの出品などを取り入れていくことが今後の課題である。